

《令和6年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第2回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和6年11月20日（水）

時 間：14:00～16:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和6年度 第2回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化・知識向上

参加者：49名

阿南市内の福祉・介護従事者、阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、阿南保健所職員、阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

【開催挨拶】



阿南市医療センター 緩和ケア内科部長・教育担当・病院長補佐
寺嶋 吉保 氏

【講義1：薬剤師との連携について】

講師：徳島県薬剤師会 阿南那賀支部長 内田 浩二 氏



薬剤師との連携について、事前アンケートで質問のあった項目を中心に講義をいただいた。薬剤師の在宅療養での役割として、患者さんが適切に服薬することにより、患者の病状、ADL、そしてQOLを改善または維持することができる。そのためには、服薬管理が悪い場合、その理由を探り、改善のための対策を行う。一包化やピルケースの使用、投薬カレンダー等、患者の状態と能力に応じた

管理方法を提案している。また、お薬手帳について、残薬整理や多剤管理だけでなく、多職種間のツールとしても活用することができる。

次に、何の薬か理解していないため、飲まない方への対応策として、薬効を理解できるまで説明及びその理解を助けるための服薬支援をする。患者さんが理解して飲むことが鍵であり、コンプライアンスよりもアドヒアランスの向上を意識する。

最後に、訪問指示は医師から来ることだけを待つのではなく、薬局や介護支援専門員、看護師、介護職員等の提案からスタートすることもある(いずれの場合も医師の指示は必須)。医師及び介護支援専門員への報告・情報共有は必須だが、必要に応じて看護師等とも情報を共有し、連携を取っていく「多職種連携」が在宅では重要であると説明があった。



【質疑応答】

①居宅療養管理指導の地域範囲について

→各薬局での考え方は違うが、15kmが標準と思われる。

②要支援の認定がある方で、介護サービスを受けていない場合（ケアプランが無い場合）の居宅療養管理指導はどのような対応になるのか？

→算定できる。令和6年度介護報酬の解釈（P.246 参照）。お世話センターとして把握は重要で、その人への支援が適切であるかの精査は必要。医療も介護保険制度の知識向上を行い、連携強化に繋げていく。

【講義2：グループワーク】



グループワークでは、講義で学んだことを踏まえ、4つの場面（①日常の療養支援 ②入退院の支援 ③急変時の対応 ④看取り）について話し合った。入退院の支援で、入院時にケアマネジャーに連絡していないことがあり、医療側から担当ケアマネジャーが分からず時間を要することがあったが、在宅医療・介護連携支援センターからお薬手帳に担当のケアマネジャーの名刺を入れるよう声かけをしてくれていることで改善には向かっている。日常の療養支援については講義を受け、居宅療養管理指導による在宅生活の継続へ位置付けていきたいと薬剤師との連携についての意見があった。急変時の対

グループワークでは、講義で学んだことを踏まえ、4つの場面（①日常の療養支援 ②入退院の支援 ③急変時の対応 ④看取り）について話し合った。入退院の支援で、入院時にケアマネジャーに連絡していないことがあり、医療側から担当ケアマネジャーが分からず時間を要することがあったが、在宅医療・介護連携支援



応では、お薬手帳が多職種連携に繋がっていることを知り、今後の業務・対応への安心に繋がったとの意見があった。また、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりへの団結へ、今後も医療と介護の関係・連携を継続するためにもケアカフェ等の交流の場は継続して欲しいとの意見があった。

【総評】



今回の参加者は保健所や医師会等の関係機関も参加していただいたことで、より現場の実情を把握することができたとの声も聞こえたため、今後も継続していきたい。

薬剤師との連携について、医療・福祉関係従事者の知識向上ができたことで、連携強化の向上に繋がった。

今後も地域住民の皆様が在宅での生活が継続できるよう、専門性を高めるケアカフェを開催し、顔の見える関係づくりで連携強化を目指す。

【研修会風景】



研修動画は[阿南市在宅医療・介護連携支援センターYouTube](#)でご覧いただけます。

報告者：センター長 湯浅